

特254

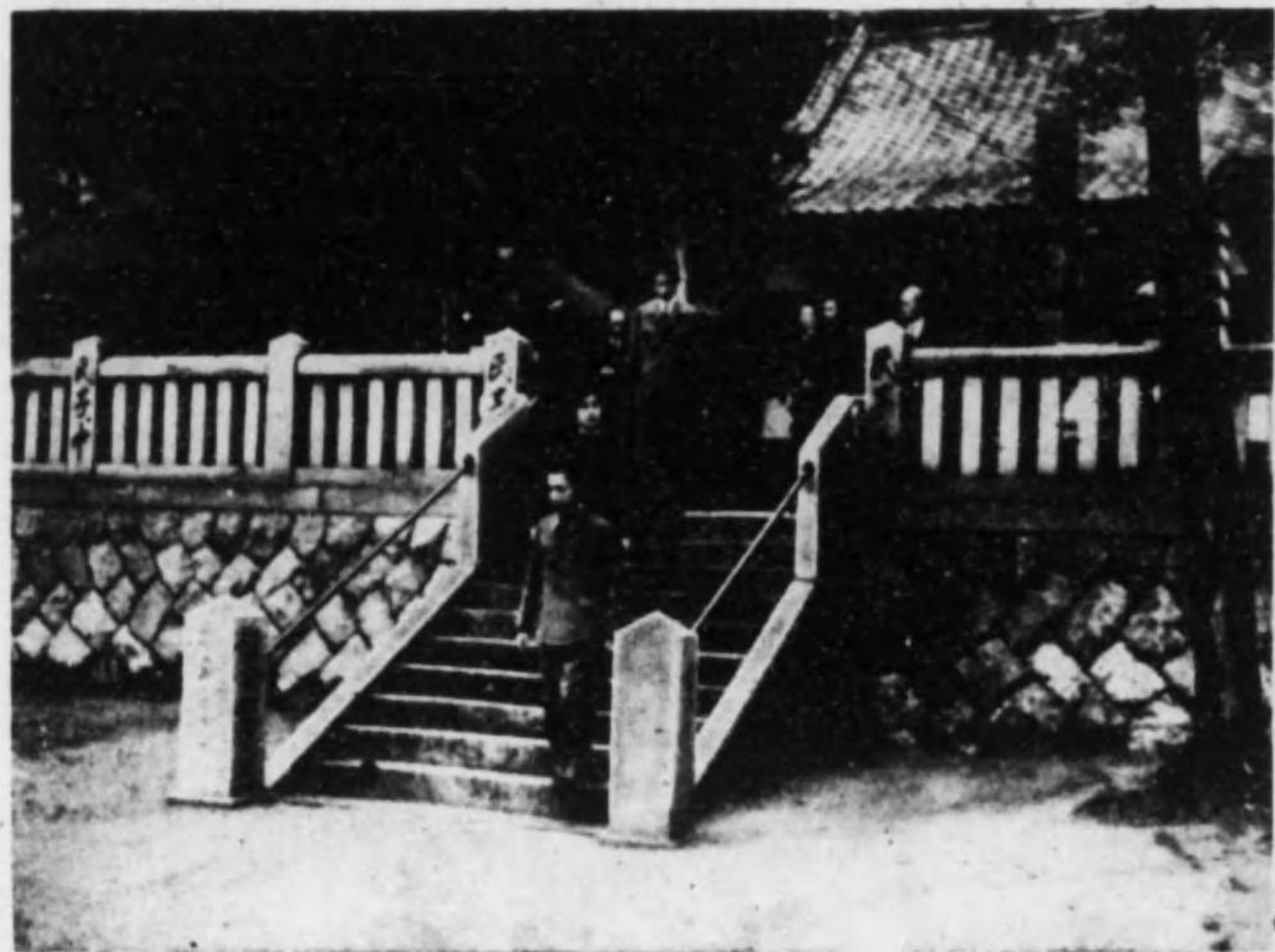
942

美久留滿乃阿登

大日本婦人會香川縣支部

始





其の一

昭和十八年十一月九日

(一) 香川縣香川郡上笠居村

熊野神社境内に設けられたる大日  
本婦人會員奉仕の季節保育所の御  
視察を了らせ給ふ。



其の二

昭和十八年十一月九日

(二) 香川県綾歌郡山内村

大日本婦人會員毎日交代奉仕せる  
常設保育所御視察を終らせ給ふ。  
こゝでは保育事業と給食とを行つ  
てゐる。



其の三

昭和十八年十一月九日

㊦香川県綾歌郡山内村

大日本婦人會員奉仕による幼児保育施設を行へる隣保館の御視察を終らせ給ひ、同館玄関をお出まし常設保育所に向はせ給ふ。

目次

口繪

- 一、香川郡上笠居村農繁期婦人會員牛耕の實況の御視察遊ばさる
- 二、綾歌郡山内村にて大日本婦人會員奉仕による隣保館より愛育園に向はせ給ふ



一、緒言	香川縣	五
二、高松宮妃殿下御視察日程	香川縣	八
三、高松宮妃殿下御視察概況	香川縣	一八
四、列立拜謁名簿	香川縣	一八
五、言上書	小菅文江	一九
同	澤村ひさ	二一
六、高松宮妃殿下御視察御模様謹記	大日本婦人會香川縣支部	二五



七、御視察箇所御模様謹記……………二一八

イ、松下電器産業株式会社眞空工業所高松工場……………二一八

ロ、香川縣立高松高等女學校……………三二一

ハ、古高松國民學校……………三四

ニ、香川郡上笠居村……………三三六

ホ、綾歌郡山内村……………三七

ヘ、香川縣立修練道場……………三八

ト、仲多度郡琴平町……………四一

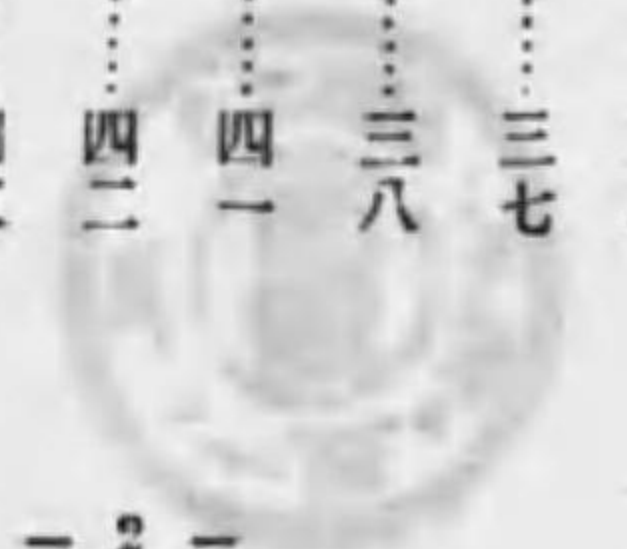
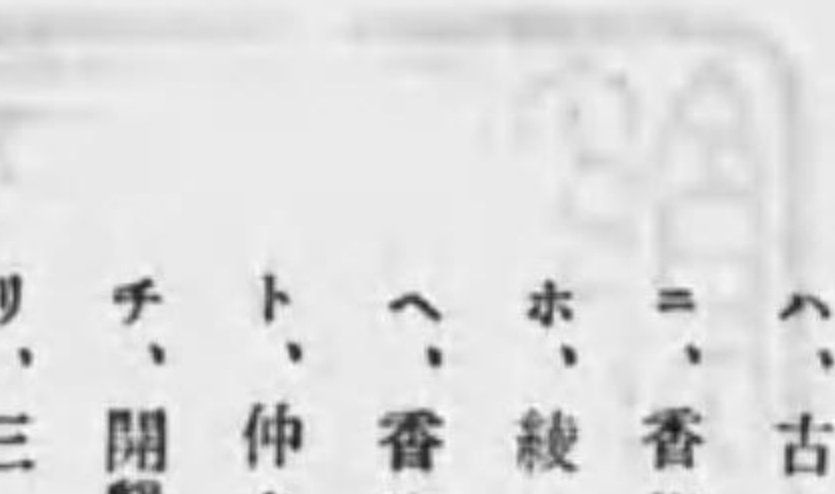
チ、開墾塩業株式會社丸龜出張所……………四二

リ、三豊郡仁尾町……………四二

ヌ、三豊郡觀音寺町……………四四

ル、三豊郡豐濱町……………四五

八、高松宮妃殿下御視察記念事業……………四七



一、緒言

畏れおほくも 皇后陛下には、大東亞戦争完遂のため銃後總力戦の一翼を擔つて日夜滅私挺身しつゝある決戦下日本婦人の勤勞と生活狀況にかねてより深き御心を注がせ給ふと洩れ承りますが、更に國內總力戦御激勵の思召をもつて、金枝玉葉の御身を以て親しく工場に行啓あらせられ、又各皇族妃殿下に御内旨を賜つて全國各府縣へ御成を賜つて居ますことはかき極みであります。

皇后陛下には畏れおほくも昭和十八年五月十九日、銃後婦人關係施設及び婦人總努力の實相を御視察「戦ふ婦人」に親しく御激勵を賜ふ有難き思召を以て、東京市保健館、東京府豊島授産場、東京第一陸軍造兵廠及び凸版印刷株式會社板橋工場に行啓あらせられました。戦時下かゝる思召によらせ給ふ長時間の行啓は未だ其の御前例なく、しかも特に、陛下にはこの日の御巡視にあたり、日頃精勵のありのまゝの姿をとの畏き思召により、職場にある者の奉送迎は受けさせられず、その服装も平素のまゝにとの御内沙汰あらせられ、働く婦人達は「働きの姿勢」のまゝで奉送迎申上げました。はからずも光榮に浴した各施設、工場、隣組關係者一同は恐懼、たゞ／＼畏き思召に感泣し奉つたのであります。

つゞいて國內各府縣に「戦ふ婦人」御激勵の御内旨を奉じさせられて、各皇族妃殿下の親しく御成の御趣を拜することとなり、我が香川縣へは 畏れ多くも高松宮妃殿下の豪臨を拜することになつたのであります。

時は昭和十八年十一月八日九日十日の三日間に亘らせ給ふたのであります。大戦完遂の總力戦士として刻下益々責務の重大を自覺いたします私ども全縣下日本婦人會員にとりまして、まことに前例なき光榮、これぞ榮ゆる御代に遭ひ奉る生けるしるしとたゞ／＼恐懼感激の上はます／＼奮勵以て 畏き御心に應へ奉らんことをお誓ひいたす次第で御座います。

302-7

この三日間に 殿下の御成遊ばされた縣下各所の縣民は忝くも咫尺に尊顔を拜し奉り、有難き思召の玉の御壁に接し御高德のかす／＼を拜し、たゞ／＼感泣いたし嗚咽にむせんだ次第で御座います。

其の當時の状況を記録して長く／＼ 殿下の御高德を偲び、以てます／＼其の持場持場に奮勵し、其の持場が戦場であり其の日其の日の生活が戦ひでありますことを自覺し、以て大東亞戦争を完勝せねばならぬと存じます。

本書はかゝる意味で生れたものであります。十分本書誕生の眞意義を把握して縣下十六萬婦人會員が奮起奮闘、以て皇恩の萬一に酬ひ奉らねばならぬことと存じます。

今や戦はいよいよ凄愴苛烈を加へ敵の反抗悔るべからざるものあるの時、皇國興亡の責任を荷ひ、一死報國、大日本婦人會本來の大使命を達成し、我が國體の尊嚴をいやが上に發揮して、皇國傳統の婦道の光輝を永く／＼竹帛に垂れねばならぬと思ひます。

二、高松宮妃殿下御視察御日程

香川縣

日	第	日程	時刻	所要時間	御視察目的	備考
十一月七日		東京驛 御發	二〇、三〇分			
十一月八日		岡山驛 御着	一一、〇八			
		同 野驛 御着	一一、三六			
		宇野驛 御着	一二、三〇			
		宇野棧橋驛 御發	一二、四五			
		高松棧橋驛 御着	一三、四五			御連 畫絡 食船
		同 御發	一三、四八			
		御宿泊所 御着(披雲閣)	一三、五二	一、〇八分		
		同 御發	一五、〇〇			
		香川縣廳 御着	一五、〇三		拜謁竝に言上	
		同 御發	一六、〇三			
		高松監視哨 御着	一六、〇六		防空監視	
		同 御發	一六、一六			
		御宿泊所 御着(披雲閣)	一六、二〇			

日	二	第
十一月九日		
御宿泊所御發(披雲閣)	九、三〇	
松下電器産業株式會社 真空工業所高松工場	九、三七	女子勤勞狀況
同	一〇、〇二	
縣立高松高等女學校	一〇、〇五	軍需被服修理 及體鍊
同	一〇、三五	
高松市古高松國民學校	一〇、五五	學校榮養給食
同	一一、一五	御畫食
香川郡上笠居村	一二、四五	
同	一三、二五	共同炊事季節託兒 所農繁期諸作業
綾歌郡山内村	一三、四〇	隣保館常設託兒所
同	一四、〇五	
縣立修鍊道場	一四、四〇	縣民鍊成施設
同	一五、一〇	
滿濃池	一五、二五	土器川用排水 改良事業
同	一五、四五	
御宿泊所御着(虎屋旅館)	一六、〇〇	

日	三	第
十一月十日		
御宿泊所御發(虎屋旅館)	八、四〇	金刀比羅宮御參拜
金刀比羅宮山麓	一〇、四〇	
香川縣護國神社	一〇、五三	御參拜
同	一一、一〇	
開墾鹽業株式會社	一一、三〇	塩田作業及 製鹽工場
丸龜出張所	一二、五〇	御畫食
同	一二、五〇	
多度津町銃後奉公會	一三、〇五	
軍人遺家族授産場	一三、二〇	遺家族授産施設
同	一三、二〇	
仁尾町立青年學校	一三、五五	綿羊毛加工及 農業實習狀況
同	一四、二〇	
三豊郡觀音寺町	一四、三八	漁業狀況
同	一五、一八	
正織興業株式會社	一五、三六	女子勤勞狀況
同	一六、〇一	
豐濱	一六、〇四	
同	一六、〇五	



三、高松宮妃殿下御視察概況

月日	御視察所	行事次第	先導、言上者	奉仕者	奉迎送者	摘要
十月一日	香川 縣廳	御休憩 二分 (献茶) 單獨拜謁 三分 (知事室)	先導 知事 單獨拜謁 知事、各部長、 官房長、	御食調製者 新常盤 廳員 乃生 民子 猪熊ノブ子 綾田 幸子	知事、縣廳部、課 長以下縣廳職員 右縣廳構内に於て 奉迎送 (一般廳員は奉迎のみ)	知事、官房長 宇野驛迄御出迎 各部長、主要官 公衛の長、婦人 會支部長、副支 部長高松棧橋迄 御出迎 高松棧橋御着 (三、翌後披雲閣 御成、御休憩一 時間八分の後十 五時御發縣廳へ)
十月一日	御着 一五、〇三 御發 一六、〇三	廳内課長 列立拜謁 二分 (知事室)	列立拜謁 奧崎 益美 山本 幸雄 永峰 小太郎 平田 沖正 朝倉 大吉 竹内 源次 倉井 節 阿部 春夫 妹尾 武文 横田 季雄 後藤 彌平	茶菓調製者 後藤 清次 大内 松次		

月日	御視察所	行事次第	先導、言上者	奉仕者	奉迎送者	摘要
十月一日		婦人活動功勞者 列立拜謁 十分 (議事堂)	列立拜謁 宮内 利夫 奈良 興雄 白岩 晃 三浦 與四郎 藤本 定一 安藤 三郎 宇藤 俊美 宮武 兼三郎 香西 敏雄 岡田 敏雄 戸田 政廣 稲本 昇 田中 藤祐			
			小菅 文江 富家 ツ子 福吉 愛子 濱田 たけ 宮崎 フサ 中井 隆 三浦 シゲ 山下 ひさ		婦人活動功勞列立 拜謁者構内に於て 奉送	記念道路に於て 婦人會幹部、遺 族、孝子、節婦 高等女學校生徒 國民學校兒童、 青年學校生徒堵 列奉拜

日 九 月 一 十	日 九 月 一 十	日 八 月 一 十
<p>縣立高松 高等女學 校 御着 一〇、〇五 御發 二〇、二五</p>	<p>松下電器 産業株式 會社眞空 工業所高 松工場 御着 九、三〇 御發 二〇、二〇</p>	<p>高松監 視哨 御着 一六、〇六 御發 一六、二六</p>
<p>御休憩 二分 (献茶) 拜謁に言上 六分 軍需被服修理 作業、成績品 御視察 二階五教室 十分 體鍊 九分 御休憩 二分</p>	<p>御休憩 二分 拜謁に言上 七分 工場御視察 十六分</p>	<p>拜謁並に 言上 四分 知事屋上御説明 二分 監視哨御視察 四分</p>
<p>先導 校長 赤羽 廣志 拜謁並に言上 校 長</p>	<p>先導 社長 松下幸之助 拜謁 讚岐地方事務所長 大西 林次 言上 社長</p>	<p>日本徴兵館入口よりエ レベーター迄 先導 警務課長 五階エレベーターより 監視哨所迄 先導 高松警察署長 拜謁並に言上 哨長 前川 圓太郎</p>
<p>佐々木三和</p>	<p>田所ミツ</p>	
<p>玄關に於て 校長、奏任教諭 御出迎 校庭に於て 芳勲塾關係者御 出迎</p>	<p>社長、職員御出迎</p>	
<p>途上に於て一年 二年生徒塔列奉 拜 御召車及次車 は門内迄入る こと</p>		<p>妃殿下の エレベーターに 御同乗するは 宮内事務官、宮 内主事、知事及 御用取扱</p>

日 八 月 一 十
<p>知事管内状況 言上 十五分 婦人活動功勞者 言上 (二名) 二十六分 御休憩 二分</p>
<p>言上 澤村ひさ 小菅文江 福家惣衛 出射宰平 稲本元三郎 宮野眞平 入江俊輔 鈴木多義 氣多野芳三 矢野芳三 三原スエ 出射サエ 浮田サル 今井井 松浦數江 稻本絹枝 松原智恵 澤村ひさ 鈴木登志</p>

日 九 月 一 十	日 九 月 一 十
御發 一五、一〇 御着 一四、〇〇 修鍊道場 縣立	綾歌郡 山内村 御着 一三、四〇 御發 一四、五〇
生徒の行 五分 事御視察 御休憩 二分 拜謁並に 七分 言上	御休憩 四分 (献茶) 拜謁並に 六分 言上 隣保館 五分 御視察 常設託兒 十分 所御視察
先導 相原言三郎 場長 拜謁 場長 仲多度郡地方事務 所長 高木 桂 榎井村長 齋藤時次郎 言上 場長	先導 福井勝美 村長 拜謁 村長 綾歌地方事務所 所長 美馬 辨市 言上 村長
尾崎邦子 藤村アサエ	松尾敏 平尾孝子
榎井村 婦人會幹部 遺族 孝子、節婦	山内村婦人會幹部 遺族 孝子、節婦
途上に於て國民 學校兒童、青年 學校生徒堵列奉 拜 御着直ちに廣場	途上に於て 國民學校兒童、 青年學校生徒堵 列奉拜

日 九 月 一 十	日 九 月 一 十
香川郡 上笠居村 御着 一三、五〇 御發 一三、三五	高松市古 高松國民 學校 御着 一〇、五〇 御發 一三、一五
御休憩 二分 拜謁並に 七分 言上 季節託兒 五分 所御視察 共同炊事 七分 場御視察 婦人牛耕 八分 御視察	御休憩 二分 拜謁並に 六分 言上 學校營養給食 狀況御視察 二十分 御晝食 四十分 (献茶菓) 御休憩 四分
先導 德田源一 村長 拜謁並に言上 村長	先導 石濱勇市 校長 拜謁並に言上 校長
鬼無テルコ 山花ミチ子	田中照美 中村徳美 御晝食 調製者 新常盤
上笠居村 婦人會幹部、遺族 孝子、節婦 熊野神社境内にて 御出迎	高松町、新田町、 春日町關係遺族及 婦人會幹部、孝子 節婦
縣道入口より熊 野神社迄御徒歩 十一分 國民學校兒童、 青年學校生徒鬼 塚附近にて奉拜	途上に於て國民 學校兒童、青年 學校生徒堵列奉 拜 拜謁及言上の室 は講堂 御晝食は學校作 法室とす

日十月一十	日十月一十	日十月一十
多度津町 銃後奉公 會軍人遺 家族授産 場 御着二三、〇五 御發二、一〇	開墾塩業 株式會社 丸龜出張 所 御着二、三〇 御發二、五〇	護國神社 御着二〇、五 御發二、一〇
御休憩 二分 御調立に 五分 言上 八分 御視察場	御休憩 三分 言上 七分 御視察場 五分 御畫食 七分 鹽田作業狀 八分 況御視察	御參拜 十分
先導 場長 今井浩三 拜調場 言上場 長	先導 所長 橋良貫 拜調 高松地方專賣局長 安達 豊 所 長 言上所 長	先導 社司 久世章業
	高島イワ子 三田勝子 御畫食 調製者 虎屋旅館	
多度津町 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族	丸龜市 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族	善通寺町 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族
途上に於て國民 學校兒童、青年 學校生徒堵列奉 拜	途上に於て高等 女學校生徒、國 民學校兒童、青 年學校生徒堵列 奉拜 御畫食は御休憩 室とす	途上に於て高等 女學校生徒、國 民學校兒童、青 年學校生徒堵列 奉拜

日十月一十	日九月一十
金刀比羅 宮 御宿泊所 御發八、四〇 金刀比羅 宮山麓 御發二〇、四〇	滿濃池 御着 一五、三五 御發 一五、四五
御徒歩 御手洗 御修祓 御休憩 寶物館、圖書館、 學藝館、御臺覽 一二時間	御休憩 三分 拜調 三分 言上 七分 堰堤嵩上 工事、配 水塔御視 察 七分
先導 宮司 久世章業 町長 安達賢 拜調 宮司 言上 町長 （九日夕虎屋 旅館に於て）	先導 耕地課長 竹内源次 拜調 滿濃池普通水利 組合議員 常設委員 田中正義 塚田忠光 神野村長 石井虎治郎 言上 村長
天野出仕 岡部出仕 武田出仕	石井カズエ 田中レイ子
琴平町 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族	神野村 婦人會幹部 遺族 孝子、節婦
途上に於て高等 女學校生徒、國 民學校兒童、青 年學校生徒堵列 奉拜 大日本婦人會香 川縣支部長、琴 平町支部長扨從 す 御歸路裏山道 口御發	途上に於て國民 學校兒童、青年 學校生徒堵列奉 拜

日 十 月 一 十	日 十 月 一 十
<p>御發 一四、二〇</p> <p>御着 一三、五</p> <p>仁尾町立青年學校</p>	<p>御發 一六、〇</p> <p>御着 一五、五</p> <p>正織興業株式會社 豐濱工場</p>
<p>御休憩 二分</p> <p>拜謁並に言上 六分</p> <p>緬羊飼育狀況、羊毛加工狀況、農業實習狀況、</p> <p>御視察 十七分</p>	<p>御休憩 二分</p> <p>拜謁並に言上 七分</p> <p>織布、縫製、染色、御視察 十五分</p> <p>御休憩 一分</p>
<p>先導 學校長 佐藤行久</p> <p>拜謁 校 長</p> <p>三豊地方事務所長 松浦 義治</p> <p>町長 鹽田忠左衛門</p> <p>言上 校 長</p>	<p>先導 社 長 姫井三龜男</p> <p>拜謁 廣島陸軍被服支廠長 小林 覺太</p> <p>玉野海軍監督官 竹崎 馨</p> <p>社 長 豐濱町長 合田政重郎</p> <p>言上 社 長</p>
<p>河田カネエ</p> <p>鹽田歌子</p>	<p>合田峰子</p>
<p>仁尾町 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族</p>	<p>豐濱町 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族</p>
<p>途上に於て國民學校兒童、青年學校生徒堵列奉拜</p>	<p>途上に於て國民學校兒童、青年學校生徒堵列奉拜</p> <p>新居濱行列車延着の際に再び御休憩</p> <p>豐濱驛 御發 一六、〇五</p> <p>川之江驛迄御見送</p> <p>知事、官房長 大日本婦人會 香川縣支部長 豐濱驛御見送 新居濱驛 御着 一七、〇〇</p>

日 十 月 一 十	日 十 月 一 十
<p>御發 一五、八</p> <p>御着 一四、天</p> <p>三豊郡觀音寺町</p>	<p>御發 一六、〇</p> <p>御着 一五、五</p> <p>正織興業株式會社 豐濱工場</p>
<p>御休憩 六分</p> <p>拜謁並に言上 九分</p> <p>(献茶)</p> <p>自動車 三分</p> <p>漁業狀況 御視察 二十二分</p>	<p>御休憩 二分</p> <p>拜謁並に言上 七分</p> <p>織布、縫製、染色、御視察 十五分</p> <p>御休憩 一分</p>
<p>先導 町長 金子柳太郎</p> <p>拜謁 町 長</p> <p>言上 町 長</p> <p>先導 助役 片山 四郎 (濱邊)</p>	<p>先導 社 長 姫井三龜男</p> <p>拜謁 廣島陸軍被服支廠長 小林 覺太</p> <p>玉野海軍監督官 竹崎 馨</p> <p>社 長 豐濱町長 合田政重郎</p> <p>言上 社 長</p>
<p>浮田サダ</p> <p>田中壽賀</p>	<p>合田峰子</p>
<p>觀音寺町 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族</p>	<p>豐濱町 婦人會幹部 孝子、節婦 遺族</p>
<p>途上に於て高等女學校生徒、國民學校兒童、青年學校生徒堵列奉拜</p> <p>浴日館にて言上を終り、漁業場迄自動車に御乗車</p>	<p>途上に於て國民學校兒童、青年學校生徒堵列奉拜</p> <p>新居濱行列車延着の際に再び御休憩</p> <p>豐濱驛 御發 一六、〇五</p> <p>川之江驛迄御見送</p> <p>知事、官房長 大日本婦人會 香川縣支部長 豐濱驛御見送 新居濱驛 御着 一七、〇〇</p>

四、列立拜謁名簿

香川縣

官職	同上拜命年月日	位勳功	氏名
大日本婦人會香川縣支部長	昭和十七年三月三十日		小菅文江
大日本婦人會香川縣副支部長	昭和十七年四月七日		富家子
大日本婦人會香川縣副支部長	昭和十八年九月二十九日		福吉愛
大日本婦人會香川縣支部理事	昭和十七年四月七日		宮崎フ
大日本婦人會香川縣支部理事	昭和十七年四月七日		中井隆
大日本婦人會香川縣支部審議員	昭和十七年十月二十四日		三浦シ
大日本婦人會香川縣支部審議員	昭和十七年十月二十四日		山下ヒ
大日本婦人會高松市支部長	昭和十七年十月十二日		鈴木登志
大日本婦人會丸龜市支部長	昭和十七年四月二十日		澤村ヒ
大日本婦人會木田郡支部長	昭和十七年七月二十一日		松原知恵
大日本婦人會香川郡支部長	昭和十七年五月二十二日		稻本絹枝
大日本婦人會綾歌郡支部長	昭和十七年七月二十四日		松浦數江
大日本婦人會仲多度郡支部長	昭和十七年七月八日		今井ル
大日本婦人會三豊郡支部長	昭和十七年四月十二日		浮田サ

大日本婦人會小豆郡支部長	昭和十七年十一月六日	從六位勳四等 功五級	出射清
大日本婦人會香川縣支部理事	昭和十七年四月七日		三原ス
大日本婦人會香川縣支部理事	昭和十七年四月七日		矢野芳三
大日本婦人會香川縣支部顧問	昭和十七年七月五日		氣多義仲
大日本婦人會香川縣支部顧問	昭和十七年七月二十五日		入江俊輔
大川郡町村長	昭和十六年八月一日	正八位	宮野眞平
香川郡町村長	昭和十八年六月十五日		稻本元三
小豆郡町村長	昭和十六年四月一日	正七位勳六等	出射宰平
大日本婦人會香川縣支部事務局長	昭和十八年四月一日	從五位勳六等	福家惣衛

五、言上書

小菅文江

大日本婦人會香川縣支部長小菅文江ヲ御座イマス。  
 謹シテ縣下婦人會ノ必勝國民貯蓄増強ニ關シ實行致シテ居リマス事柄ニ就キマシテ言上申シ上ゲマス。  
 昭和十七年四月七日大日本婦人會香川縣支部ガ結成セラレマシテ以來、私達ハ一意専心本會ノ使命達成ノ爲皇國傳統ノ婦道ニ則リマシテ、婦人同士互ニ助け合ヒ勵シ合ヒ、一步一步コノ大戦争ニ勝テ抜キマスタメニ才役ニ立チタイト、一生懸命ニ力

ヲ盡シテ御奉公申シ上ゲテ居リマス。

其ノ中デモ貯蓄ハ婦人ノ手デ出来マス事ノ内デ、今ノ日本ニ一番大切ナ事ダト存ジマシテ、此ノ方面ニ出来マス限リ心ヲ合ハセテ努力致シテ居リマス次第デ御座イマス。

貯蓄ノ増強ニ就キマシテ婦人必勝國民貯蓄組合ヲ作り、本年九月末日現在組合數一千四百四十三、加入組合員十五萬二千八百二十人、預入現在額貳百貳拾七萬八千九百五拾圓トナツテ居リマス。

前年度ノ目標額八十五萬五千七百六十八圓ニ對シマシテ、百五十一萬四千八百三十三圓ノ貯蓄トナリ、目標額突破六十五萬九千六百五圓デアリマス。本年度ハ四月一日以來七十六萬四千七百七十七圓ノ増加デ御座イマシタ。

本年度ノ目標額八百五十八萬三千四百六十圓デ、スデニ約半分ハ達セラレテ居リマスノデ、總額八十一萬九千三百四十三圓ハ、本年度末迄ニハ十分達成イタサレマス見込デ御座イマス。

右ノ外積立貯金、簡易保險、郵便年金等ニヨリマシテ貯蓄ヲ致シマスト共ニ、婦人常會、町内會、部落會、隣組ヲ通ジマシテ、戰勝貯金、感謝貯金、記念貯金、血涙貯金等各種ノ名目ノ下ニ之ガ増強ヲ圖リ、又國債、債券ノ完全消化ヲ企ツル等、専ラ資金ノ集中ヲ圖ツテキマス。

貯蓄ノ指導ニ就キマシテハ、經濟決戰大會、經濟ニ關スル講演會、講習會ヲ開催イタシマシテ其ノ必要ヲ力説シ、又貯蓄優良支部ノ表彰、貯蓄指導ニ關スル各種展覽會ヲ開催シテキマス。

ソノ上貯蓄ノ指導ニ當ラセル爲ニ、各都市支部ニ貯蓄推進員二名宛、各町村支部及ビ各聯合班ニ貯蓄督勵員一名以上ヲ設置イタシマシテ、其ノ活動ヲ促進シテキマス。

更ニ貯蓄源泉ノ培養ニ就キマシテハ、一方デハ極力節約致シマスルト共ニ、他方デハ勤勞ヲ強化シ、内職副業等ヲ獎勵致シマシテ、收入増加ヲ計ツテキマス。

消費方面デハ、衣生活ヲ簡素化シテ有合セノモノデ間ニ合ハセ、極力更生ニツトメ新調ヲ廢シ、會服、標準服、短袖モノ

メンバー等ヲ着用スルコトヲ獎勵シ、衣料切符賦納ニ努メテキマス。

食生活デハ、郷土食、玄米食、甘藷、馬鈴薯ノ混飯食ノ獎勵、完全咀嚼ヲス、メ、翼贊罐ノ使用ヲ獎勵シテ燃料ノ節約ヲ圖リ、尙各種間ニ合セ運動ヲイタシ、電氣、ガス、水道ノ節約ニモ努メ、家庭經濟ヲ極力切りツメテ居リマス。

ナホ進ンデ勤勞ヲ強化シテ内職副業ノ獎勵ヲ致シテキマスガ、今縣下デ最も多ク行ハレテキマス、其ノ種類ヲ申シ學ゲマスト、農山漁村デハ藥品製造トシテ吹織、繩織、菰編織等ヲイタシ、竹細工トシテ箆、籠等ノ製造、道路用砂利ノ採取、醬油製造用袋ノ洗濯修理、薪ノ採取、木炭薪材ノ運搬、造船用松材ノ皮剝、藥草殊ニ彼岸花ノ採取、草刈、木炭入俵ノ製造、下駄ノ鼻緒ノ製造、養鶏、養兔、綿羊、山羊等ノ飼育デゴザイマス。都會地デハ軍手ノ製造、襪衣ズボン下ノ裁縫、軍服ノ卸付、穴カガリ、肩章襟章腕章等ノ仕立、其ノ他各種ノ編物、裁縫等デゴザイマス。

カクシテ今ヤ戰局ノ凄愴苛烈ヲ極メマスルニ當リ、一層奮起イタシマシテキマス。殊ニ本年六月十八日ノ婦人總躍起申合セノ飛行機ト船ニ優秀ナル戦士ヲ捧ゲマスルト共ニ、此等ノ戦士ノ乗ルベキ飛行機トシテ、陸軍機一海軍機一計二機ヲ、私タチ婦人ノ貯蓄ニヨリ、本年十二月八日ノ大詔煥發第二回記念日ニ、日婦香川號ヲ献納スルコトニナツテキマス。

縣下婦人會員一同ハ此ノ度、殿下ノ御視察ノ光榮ヲ永ク心魂ニ銘ジ、決戰下一層奮勵努力致シマシテ各々其ノ本分ヲ盡シ御慶澤ニ應ヘ奉ランコトヲ期スル次第デ御座イマス。

## 言 上 書

澤 村 ひ さ

謹ンデ決戰下婦人ノ衣生活ト食生活トニ就キマシテ、私ガオ世話ヲシテ居リマス丸龜市支部ニ於キマシテ、實行シテ居リマス事ヲ中心ト致シマシテ、本縣下ノ現況ヲ言上申シ上ゲマス。

衣ノ生活ニ就キマシテハ、戦力増強ノ爲ニ纖維品ハ一般民衆ヘハ全體ノ二割方廻ルトノコトデゴザイマスガ、ソレモ第一ニ

乳幼児次ニ妊産婦、勞務者、ソレカラ一般ヘノ順位ニヨツテ配給セラレルト言フコトデゴザイマス。

大概ノ家庭デハコレカラ先相當長期間新調シナクテモ行ケル見込デゴザイマスノデ先ヅ、「新調ヲ止メマセウ」、「有合セノモノデ間ニ合ハセマセウ」、ト言フ申合セタイタシマシテ其ノ利用更生ニツトメテ居リマス。

其ノ方法ノ要旨トシマシテハ

- 一、日本婦人本來ノ容姿ヲ没却シナイコト。
  - 二、出來ルダケ簡素化スルコト。
  - 三、衣生活ノ計畫ヲ樹テ、衣服ノ種類並ニ數量ヲ少クスルコト。
  - 四、一切ノ虚飾ヲ廢シテ活動ニ便利デアルコト。
  - 五、保健衛生的ナモノデアルコト。
  - 六、經濟的ニ活用スルコト。
  - 七、仕立方モ簡單ニシテ自家デ裁縫ノ出來得ルコト等ノ指導ニ努メテ居リマス。
- 婦人標準服ハ、ソノ意味ニオキマシテ、之等ノ諸點ニツイテ考慮サレテアリマスノデ、度々婦人標準服ノ講習會ヲ開催イタシ、又ハ展覽會等ニヨツテ其ノ普及ニ努メテ居リマスガ、漸次着用者モ多クナル傾向デアリマス。
- 夏期ノ服トシマシテハ、簡單服ガ盛ンニ用ヒラレテ居リマス。寒ムサニ向ヒマシテハ種々ナル點カラ考慮セラレマシテ、婦人標準服ノ乙型ガ一般ニ用ヒラレテ居リマス。又決戦下ノ活動衣トシテ「モンベ」ハ便利デ保健上ニモヨイノデ、婦人ノミカ幼児、學童、女學生ニモ必要ナ服トナリマシテ、盛ンニ使用サレテ居リマス。
- 婦人會々服ハ衣服ノ簡素化ノ爲ニ便利ナ服トナリマシテ、集會ノ場合ハ申スニ及バズ、種々ノ場合ニモヨク着用サレテ居リマス。
- 冠婚葬祭ノ服裝トシテハ縣下一齊ニ申合セマシテ、裾模様紋附ヲ廢シマシテ婦人標準服カ又ハ婦人會服ヲ着用シ、國民儀

禮章ヲ服用スレバヨイ事ニイテ居リマス。現ニコノ服裝ニヨツテ結婚ノ式ヲ舉ゲルモノモ、ダンドン多クナリマシタ。

衣料纖維品ニ關スル婦人ノ活動ニツキマシテハ、

1、衣料切符獻納運動ヲイタシマシタ、其ノ數昨年度總點、六十萬六千二百二十七點ニ及ビマシタ。本年度ハ只今蒐集中デゴザイマス。

2、産業戰士ヘ、補綴用布ヲ蒐集シテ分配致シマシタ。其ノ數量、百八十三貫餘デゴザイマス。其ノ他軍隊ヘノ雜巾用布、青年團ヘノ宿泊用ノ蒲團材料ノ蒐集モイタシマシタ。

3、乳幼児保護ノ爲、特ニ困ツテ居ル者ニ、「オムツ」ヤ「オムツ覆」ノ供出モイタシマシタ。其ノ數量三萬九千二百四十一枚デアリマシタ。更ニ今後ハ衣類ノ交換會等ヲ縣下各所ニ開催致シマシテ、不用不急ノ衣類ヲ彼是融通シテ纖維資材ノ節約ヲ計リ、戦力増強ノタメ必勝ニ努メタイト存ジマス。次ニ

食生活ニツキマシテハ、本縣ハ比較的資材ニ恵マレテ居リマシテ、主食、米ノ如キハ供出シテ縣外移出シテ居リマス位デゴザイマスカラ、不足ノコトハ御座イマセン。シカシ一般家庭ニ於キマシテハ出來ルダケ、食料ノ消費節約ヲ計リ、一方ニハ健

民健兵ヲ得ル爲ニ、食生活ノ合理化、科學化ヲ計リ、生活ノ改善ト食糧ノ確保ニ努メテ居リマス。

主食、白米ガ五分搗カラ三分、二分搗トナリ、更ニ麥ガ加リマシテ、今日ニ於テハ、麥ノ方ガ多イ位ノモノヲ頂イテ居リマス。更ニ主食米麥ノ量モ減リマシテ、三日ニ一度一食分ハ代用食トシテ、乾麵、素麵、馬鈴薯、麥粉等デ補食シ、種々工夫シテ頂イテ居リマス。特ニ本縣デハ、知事ガ大變甘藷ノ増産ヲ獎勵イタシマシタ結果、甘藷ノ泥飯ヲ頂イテ、食糧ノ確保ニ努メテ居リマス。

副食物トシテノ蔬菜類ニシマシテモ、不足ナコトハゴザイマセン。魚類等ハ燃料ト人等ノ關係上、從來ノ様ニハ頂ケマセンガ、榮養ニ不足スルヤウナコトハゴザイマセン。本縣デハ煮干鰯ガ近海ニ澤山トレマスノデ、相當ニ配給サレマシテ、幼児、兒童ノ發育ニ必要ナ榮養分モ得ラレマス。鳥獸肉類ハ餘リ得ラレマセンガ、豆腐、味噌又ハ時々油等ヲ頂キマスノデ、榮養不



良ニ陥ル等ノ心配バゴザイマセン。

農山村ノ如キ海ノ鮮魚ノ得ラレナイ所デハ、淡水魚、鮎、鯉、鱒、鮒等ヲ養魚シマシテ、新鮮ナ動物性食料ヲ得テ居リマス。最近地方ニヨリマシテハ、蝗、食用蛙等モ食料ニ供シテ居リマス。次ニ

食生活改善ノ実践事項トシマシテ、

1、食事法ヲ正シクスルコト、ソレニハ

イ、食前ニ於テ感謝ノ意ヲ表シ、一家和合シテ頂クコト。

ロ、過食、美食ヲ制スルコト。

ハ、配給食品ダケデ最少限度ノ必要量ヲ攝取スルコト。

ニ、咀嚼ヲ充分ニシテ栄養價ヲ揚ゲルコト。

2、調理法ヲ合理化スルコト。

イ、飯ノ炊キ方ヲ改良シテ、ソノ殖エ方ヲ多クスルコト。

ロ、食品ノ全食、生食、混食ノ方法ヲ研究シテ、栄養價ヲ揚ゲ、食品ヲ無駄ニシナイコト。

ハ、食品ノ持味ヲ生カシテ調味料ヲ上手ニ使ヒ、砂糖ヲアマリ使用シナイコト。

ニ、燃料ヲ極度ニ節約スルコト。コレニハ翼賛適ノ使用ヲ奨励シテキマス。

健民ヲ得ル爲ノ事業ニ就テ、

1、農繁期ニ於キマシテ、共同炊事ノ普及ヲ圖ツテ居リマス。コレハ時間ト努力ノ節約バカリデナク、栄養ノ増進ニ注意ヲ拂ツテ居リマス。

2、虚弱又ハ偏食ニヨル栄養不良ノ兒童ヲ健康ニ導ク爲ニ、學校給食ノお手傳ヲ致シテ居リマス。

3、乳幼児、妊産婦ノ食養ヲ研究シ、適正栄養ノ指導ニ努メテ居リマス。特ニ乳幼児ノ乳不足ノ場合ニハ、貰ヒ乳、粉乳ノ奨

勵モイタシテ居リマス。

食糧ノ増産確保ヘノ協力事業トシテ、

1、空閑地、荒蕪地ノ利用。

2、隣組ノ共同勤勞ノ指導奨励ヲ致シテ居リマス。

尙蔬菜ノ季節ト種蒔表ヲ配布シテ一般ニ示シ、又専門家ノ出張指導ヲモ受ケルコトニナツテ居リマス。

3、食料品ノ確保ヲ期スル爲ニ、救荒食品ノ貯蔵ヤ、其ノ他、加工品、乾燥野菜、鹽藏、漬物等ノ研究指導ニモ努メテ居リマス。

4、共同草刈ヲシテ、堆肥、綠肥ヲ作り、又木灰ヲ蒐集シテ、肥料ノ補助ニ努メテ居リマス。

食生活ニ關シマシテハ、度々必勝食生活講習會ヲ開催シマシテ、趣旨ノ徹底ニ努メテ居リマス。

以上縣下婦人會員ノ競争下ニ努メテキマス、衣、食生活ノ大要ヲ申シ上ゲマシタ次第デゴザイマス。

茲ニ婦人會員一同ハ、此ノ度御視察ノ光榮ヲ深ク心肝ニ銘ジマシテ、一意専心御奉公ノ誠ヲ盡サネバナラスト深ク期シテ居ル次第デ御座キマス。

## 六、高松宮妃殿下御視察御模様記事

大日本婦人會香川縣支部

畏くも 皇后陛下の御旨を奉じさせられて

高松宮妃喜久子殿下

本縣にお成り、決戦下戦ふ婦人の活動状況を御巡視遊ばさる。

大日本婦人會香川縣支部長

小 菅 文 江 謹 記

高松宮妃殿下には、畏くも 皇后陛下の御旨を奉せさせられ、決戦下における地方民の活動状況、特に生産増強に協力挺身する婦人の活動及び其の施設などにつきまして、御視察あらせられる御爲、昭和十八年十一月八日十五時四十五分、吉島事務官、町野御用取扱、川井宮内主事を始め、宇野港まで御出迎の小管知事、川合官房長等を随へさせられ、高松港棧橋御着、四國路に初の御足跡を印せられました御事は、お迎へ申上げました七十五萬縣民の齊しく光榮とし、歡喜、感激し奉つた次第でございました。

棧橋にては、松平伯爵、坂口普通寺師團長、坂元檢事正、坂本經濟部長、淺野警察部長、高松聯隊區司令官濱田久壽、高松地方海軍人事部長三阪直廉、高松市長鈴木義伸等市内主要官衙長、其の他官民多數の御出迎を受けさせられ、沿道に堵列奉迎の婦人會幹部、遺族、孝子、節婦、高松高等女學校、國民學校兒童、青年學校生徒に御會禮を賜ひつゝ、御泊所高松舊城内披雲閣に御成り遊ばされ、暫し御休憩の御後、十五時三分縣廳に成らせられしを初め、三日間に亘られまして縣下十五箇所を御巡視、親しく銃後第一線の戦力増強に敢闘する婦人の活動状況を具に御視察御激勵遊ばされ、十日十六時五分豊濱驛御發、御機嫌いと置はしく御離縣、愛媛縣にと向はせらる。

御車の御あとを偲び奉りまするに、

第一日、十一月八日十五時三分、香川縣廳に成らせられ、知事室にて知事以下有資格者に拜謁を賜ひ、縣會議事堂に於ては婦人會功勞者三十名に對し列立拜謁を賜はり、引續き知事室にて小管知事は縣内地方民情につき、私は謹みて本會の必勝國民貯蓄の概況につき、理事澤村ひさは戦時下婦人の衣生活食生活につき、夫々言上をいたしましたところ、いとも御熱心に御聽取遊ばされました、有難き數々の御下問をさへ戴きましたことは、洵に恐懼の極みで御座いました。

當日十六時六分、高松監視所にお成り遊ばされ、哨長前川國太郎の言上、並びに屋上にて知事の説明を聞召され、決戦下防空の第一線に挺身、日夜敢闘しつゝある婦人監視隊員の活動状況を御覽遊ばされて、其の勞に對し優渥なる御激勵のお言葉を賜はり、御來縣第一日の御日程を終へさせられ、御泊所に御歸還遊ばされ、第一夜を過させ給ふ。

## 第二日、十一月九日

九時三十分御泊所披雲閣御發、同三十七分松下電器株式會社真空工業所高松工場に御着、同所長の御先導にて電球製作にいそむ婦人の作業状況を御熱心に御視察遊ばされ、十時五分香川縣立高松高等女學校にお成り遊ばされ、二階五教室における五年生の軍需被服の修理作業、成績品及び體操等を察覽、十時五十五分高松市立古高松國民學校にお成り遊ばされ、婦人會の手になる學童榮養給食状況につき御視察あそばされ、十二時四十五分香川郡上笠居村御着、熊野神社境内に設けたる季節保育所にお成り遊ばされ、村長徳田源一の言上をお聴取り、婦人の活動せる保育所共同炊事場を御覽、婦人の牛耕を雨中御熱心に御視察あらせられ、一時四十分綾歌郡山内村隣保館にお成り遊ばされ、村長福井勝美の言上を聽召され、隣保館における乳幼児の定期健康診断を、ついで約百三十名收容せる常時保育所愛育園々兒の唱歌遊戯及び給食状況を覽はせ給ひ、こゝにおける日婦會員の奉仕状況を御覽の御後、自動車に召され扈從の知事以下を隨へさせられ、十四時四十分、仲多度郡榎井村香川縣立修鍊道場に御着、場長相原言三郎の御先導にて生徒の行事、農場、加工場、牛豚鶏舎、女子部の施設等御熱心に御巡覽遊ばされ、十五時三十五分満濃池に成らせられ、縣耕地課長竹内源次の言上を御聴取、折柄の雨をついて男子三十名、婦人會員六十名の活動せる堰堤嵩工事の實況、配水塔など御覽の御後、十六時三十分、御旅館琴平町虎屋に入らせ給ひ、御滞在第二日の御日程を終らせ給ふ。

## 第三日、十一月十日

當日は好天氣の秋日和、八時二十分御旅館御發、國幣中社金刀比羅宮に御參拜、いとも恭しく大御前に、しばし御祈念あそばされし神々しき御姿を拜し奉り、扈從者一同恐懼の至りでございました。

其れより、社務所、賣物館、學藝館等を御巡覽の御後、神苑に出でさせ給ひ、裏參道より御下山、十時四十五分普通寺町御着、香川縣護國神社に御參拜を終らせられ、御車は丸龜市に向はせらる。

十一時十分開墾鹽業株式會社丸龜出張所に御着、場内における真空式製鹽状況を御巡覽の上、御晝食を召させられ、婦人の

敢闘する坂田作業状況を御覽、同所長橋良貫よりの言上を聴召された。

十二時五十分、仲多度郡多度津町授産場に成らせられ、婦人の軍衣裁縫を御視察の御後、十四時三十五分、三豊郡仁尾町青年學校にお成り遊ばされ、生徒の綿羊飼育、羊毛加工状況、並に農業實習地の女生徒の甘露掘りを御視察の御後、觀音寺町海岸における地曳網の漁業状況を御覽深く御覽の御後、十五時十六分、豊濱町正織興業株式會社豊濱工場に御着、社長姫井三龜男の言上を聴召され、場内の織布染色及び縫製作業にわたり、婦人の活動状況等御熱心に臺覽遊ばされ、十六時五分豊濱驛御發、小宮知事、川合官房長扈從、愛媛縣川之江驛まで御奉送、私共縣支部役員一同は、謹みて同驛構内にて、御奉送一路御平安をお祈り申上げるうちを、三日間の御日程を恙がなく終へさせられ給ひ、いとも御機嫌置しく愛媛縣へ向はせらる。

愛媛縣の御視察を御無事終らせ給へる 妃殿下には、十一月十四日、御歸還の御途、有難くも再び本縣を御通過あらせられ給ひ、十六時二十五分、小宮知事、川合官房長、私共扈從、岡山縣宇野港まで、其他官民一同は棧橋にて御奉送申上げ、連絡船上いと御機嫌、殊の外御覽はしく御離縣遊ばされましたことは、有難き極みで御座いました。

只此の上は、私達十六萬會員は、有難き 殿下の御思召を奉戴いたしましたして、各自の職域に粉骨碎身、赤誠を捧げて婦人奉公の誠を效し、銃後婦人に課せられました光榮ある使命達成に最善をいたしまして、優渥なる聖恩に應へ奉り、聖戰完遂に進ずるの決意を益々昂揚せねばならないと深く存する次第で御座います。以上

## 七、御視察箇所の御模様謹記

### イ、松下電器産業株式會社真空工業所高松工場

時局は日と共に背烈の度を極め、血戰の日々を身を挺して戦線に繼ぐ私達生産戰士は、敵米英を撃滅せずんば止まじの戦意の彌増しに昂まるのを覚えるのであります。

折しも 長くも 皇后陛下の御旨に依り 高松宮妃下には十一月九日銃後生産女性の勤勞状況御視察の趣のもとに、當高松工場に臺臨遊ばさるゝ旨縣當局からの御内報に接しまして、社主松下幸之助は勿論のこと全従業員一同は、此の光榮に恐懼感激「みたみわれ、大君にすべてを捧げまつらん」ことに忤ることはなきかを自省し、全國生産戰士の名譽にかけてもこの御趣旨に永劫應へ奉らんと、層一層の熱血敢闘に奮起この光榮ある日をお迎申上げたのであります。

十一月九日 この日こそは松下電器産業高松工場としましては、永久に忘れることの出来ない歴史的な光榮の日でありました。

前日來の快晴に引き替へこの歴史的な感激の日は、従業員一同天氣晴朗を心深く祈申上げた甲斐もありません、雨雲低く垂れ小雨さへも交へた誠に申譯のない天候でありました。

一同齊しく空を仰ぎ、斷雲に望を託しました時間も見せず、時刻の近づくにしがひまして、小雨さへ催して來たのであります。

微かでも御旅路の御疲れを癒すことが出来ましたらの望をかけた天候も恵れませんでした。

定刻九時三十七分 高松宮妃殿下には御豫定の時刻通り正門に着御、奉迎者に一々御會釋を給はり、聊かの御疲の御様子も拜せられず、いと御朗麗な御姿で軽やかに御降車なさいました。

御雨具の用意は既に準備しており、當日係員によりまして御附女官に差上げられますやうに御捧持して居りましたが、長くも 妃殿下には御雨具も御用ひにならせられず、つかつかと御座所に御進みあらせられたのであります。丁度御座所までは十數間ほどありまして露天であります、ですから小雨にお打たれにならせられたまゝ御進みになられた譯でございます。然もその間奉迎申上げます私達の咫尺の間を一々御鄭重に御會釋遊ばされての事でありました。

高松宮妃殿下にあらせられては、職場に於ける生産戰士敢闘の姿を偲ばれまして、強いて雨具の御使用を女官に御止めになられたのではないかと御推察申上げまして、誠にその御高德に勿體なく、私達一同ひたすら感涙に咽んだのであります。

又社主の製品の説明、工場御先導中の御様子の事であり、たゞ御熱心に御視察遊ばされただけではありませず、御研究の御態度と勤勞女性の保健管理といふことに如何に深く御深慮を患されてゐられるかといふ點であります。

御視察順路は御視察豫定時間との關係から、縣當局との間に既に充分に打合せが済んでゐたのであります、ところが豫定の御視察順路でなくとも勤勞女性が操業してゐる室を御認めにならせられますとつかつかと御入室に相成りまして、その勞をねぎらはせられたのであります。

又作業場の御視察は極めて御熱心であらせられて、作業臺の咫尺の間に御顔を近づけられました、作業の状況を微細な點まで御熱覽遊ばされ、その度毎に一々御専門的な御下問をさへ賜つたのであります。御承知のやうに、私の工場の製品作業過程は極めて精細緻密な作業なのであります、従つて御熱覽遊ばすためには、従業員の身近にまで御進みにならなければならぬのであります。誠に畏い極みであります。

これは隨員の方々の誰もが、後で漏らされた言葉であつたのであります。特に保健管理につきましては一入御留意遊ばされ、「發病状況はどうか」「保健施設はどうしてゐるか」「結核性疾患はないか」「その対策はどうしてゐるか」等誠に微細な點にまで御心を勞せられて一々御下問遊ばされたのであります。

今次に於ける戰爭性格が、如何に生産部門に女性の進出を緊要としてゐるか、又皇室におかせられては、此等勤勞女性に對せられて如何に御深慮を賜はつてゐられるかを惟ひ、女性勤勞人の管理の責務の更に重大性を痛感すると共に、一死もつて御深慮に應へ奉らんことを心深く誓つた譯であります。

御視察の豫定時間は二十五分でありましたが、御熱心なる御視察は四分の超過をいたしました位であります。而もこの間一度の御休憩もなさらず御視察を終へられ、更に御召自動車に御召の折には有難き御激勵の御言葉さへ戴きました事は、誠に光榮の極致であります。私達生産戰士は、今日この感銘を生産増強に挺身報國、以つて御皇室の御深慮に應へ奉らん事を更に誓つたのであります。

毎月訪れて参ります九日の日は、八日の大詔奉戴日と共に永劫に記念すべき日でありまして、生産戰士の榮譽の上に於て、「撃ちてし止まん」の氣魄に層一層鞭打ち進まなければならぬ氣概を、生産増強の第一線に誓つたのであります。

#### ロ、香川縣立高松高等女學校

#### 高松宮妃殿下本校に御成り遊さる

香川縣立高松高等女學校長 赤 羽 廣 志

畏くも 高松宮妃殿下に於かせられては、皇后陛下の御旨を奉ぜられ、銃後婦人の活動状況御視察のため、十一月上旬御來縣遊ばされ、其の際本校にも御臺臨あらせらるゝ御豫定の旨、御當局より内報のありましたのは、十月中旬でありました。由來本校は皇室の御仁慈を蒙ること特に深く、

明治三十年五月三十日 村 雲 尼 公 殿 下  
明治四十四年四月八日 閑院宮殿下 妃 殿 下  
大正四年六月十二日 村 雲 尼 公 殿 下  
大正十四年十二月七日 北白川宮大妃殿下

等各宮殿下の御臺臨を辱うし殊に、

大正十一年十一月 今上陛下東宮でませし御時、陸軍特別大演習御統裁、同月二十一日畏くも本校に行啓あらせられまする等、其の御殊遇に一同深く感激致して居るのであります。今又此の光榮に浴しますことは誠に有り難くも恐れ多き極みで御座います。

其れより職員生徒一同、各々先づ健康に留意し、特に傳染病等の發生之れなき様、十分なる戒心を加へ乍ら、校の内外の清潔整頓に力め、御褒覧を仰ぐべき軍需被服の修理作業、成績品の製作、大日本女子中等學校體操の演練等に精根を傾けて準備しつゝ、只管誠心誠意を盡して、御成りの日を御待ち申上げたので御座います。

愈々御成りの日十一月九日は来りました、此の日、宮様は御宿舎御出まし遊ばされ、松下電器高松工場を御視察の御後、午前十時五分校門前に整列奉迎申上げる一、二年生徒に御微笑もて御會釋を賜りつゝ本校玄關に御着、御車を下り立たせられまして、そこに御出迎の奏任待遇職員に御鄭重なる御會釋を賜りました。御置はしくも御仁愛に充たされ給ふ御氣高き神々しき御姿を拜しまして、有り難さ忝なさに我身魂の熱く打ち震ふを禁じ得ませんでした。

斯くて學校長の御先導により、校長室に設けましたる御座所にて御少憩、學校長に拜謁を賜り、續いて約六分間に亘り本校教育概要の言上を御聽取遊ばされ、それより専攻科並に五年生の西部第三十五部隊より依囑を受けましたる軍服修理作業と、本校生徒の被服手藝、書道、圖畫等の成績品及び三年並に四年生の演ずる大日本女子中等學校體操等を、いとも御熱心に御視察遊ばされたのであります。

此の間妃殿下に於かせられましたは、終始御機嫌置はしく有り難き數々の御下問と御稿ひと御勵しの御言葉を賜りましたることは、殿下の時局下女子教育に對する深き御思召を拜察致しまして、誠に恐懼感激の極みで御座いました。作業室に於きましては、生徒の敬禮を受けさせられまするや、直に壇を下らせ給ふて、近々と作業の實際を細かに御覽遊ばされ、主任教員に對して洗濯石鹼や縫針縫糸等の配給は如何あるか、軍隊から依囑された修理、被服の數量はどの位か、等御下問がめり生徒に對しては服地が厚いので手が痛みはせぬか、相當破損して居るから修理にも骨が折れることであらう等、御情深き御勞はりの御言葉を賜はり、更に本校は昭和十三年以來西部第三十五部隊と連繫して年々修理作業に奉仕致して居ります旨言上致しましたるところ、それは結構である部隊も囁喜んで居ることであろうとの御勵しの御言葉さへ賜はつたのであります。成績品に就きましては、書道では特に上級生の愛國百人一首の色紙に御眼を留めさせ給ひ、圖畫では防空壕の設計圖と色彩の調和の

研究に御關心を持たせ給うた様に拜察致しました。被服手藝では古着類の更生を主としたる婦人服、活動着、防空服裝等を仔細に御覽遊され、特にモンペ、防空頭巾、手甲に關しては型の研究工夫は誰がしたか、生徒全員に所持、使用せしめて居るか等の御下問を賜はりましたとは、戦時下女學校の被服科の進むべき目安を御示唆遊されたものと恐懼致した次第であります。

體操を御覽遊されました御後、生徒の健康状態に就いて御下問がありました、一般に良好でありまして、平常の出席率も良しく長期缺席者も少く、休學の如き、全校千二百名中に僅に三名に過ぎざる旨奉答致しましたる所、重ねて結核の状況及びその處置並に豫防に付いて御下問がありました。本校に於ては比較的少くはありますが、近時次第に増加する一般の趨勢に鑑み特に留意致しまして、縣衛生課御指導のもとに、マントー氏反應検査、血沈検査、レントゲン診査等に依り早期發見と治療に力め、猶陰性者にはBCGの接種を行つて、豫防にも努力致して居ります旨奉答致しましたる所、御満足の御模様を拜しました。女子生徒の健康に對して御關心を向けさせ給ふことの斯く深き只々忝き限りで御座います。

かくて再び御座所にて御少憩遊されましたが、其の際學校長を御前に召されまして、

「作業、成績品、體操等色々見せて頂いて有り難う、一同の努力してゐる様子を見て嬉しく思う、戦時下女子教育の事は益々大切であるから更に一層精進する様に、先生方にも宜しく」

といふ意味の誠に勿體ない御言葉を賜はりました。御召により御前に參進、恭しく最敬禮を捧げましたる學校長は全く思ひ設けぬこの御仁愛の御言葉を拜しまして、遂に姿勢を正し得ず、ハツト低頭唯々感泣致すのみで御座いました。

本校御視察を終させられ、古高松國民學校に向ひ御發あらせられたのは、十時五十分でありました。

殿下を御送り致しまして、直ちに職員生徒、體育館に集合、學校長より殿下の御視察の御模様、數々の御下問、有難き御言葉等を傳へまして、一同感涙に咽びつゝも深く今日の光榮を肝に銘じ、今後一層精進努力して各々其の分を盡し、以て御惠澤に對へ奉らんことを誓ひ合つた次第で御座います。

高松宮妃殿下の御成りを仰ぎて

大日本婦人會高松市支部古高松聯合班

畏くも、皇后陛下の御内旨に依りまして、高松宮妃殿下には、本縣に御成り遊ばされ、民情特に婦人の活動状況を御視察遊ばされ、古高松國民學校が、其の光榮に浴することが出来ました事は、洵に恐懼感激に堪へない次第でございます。今謹しんで當時をおしのび奉りたいと存じます。

光榮にかゞやく昭和十八年十一月九日、私達一同がお待ち申し上げてゐた日は、おとづれました。昨夜以來降りそゞいだ小雨も心ある如く、殿下の御成りをしのびまつりて、はたと止みました。御車のお進みあそばされる沿道には、國民學校兒童、青年學校生徒、婦人會員各種團體長等の整列、特に校内には遺族席を設けて、軍人遺族の方々も靜かに整列して、御召し自動車は今やおそしと、お待ち申し上げてゐます。

やがて十時五十三分、紅葉濃き屋島山麓の觀光道路に、殿下の御車を遙かに拜することが出来ました。各隊は直ちに、「氣をつけ」と緊張の氣分にみなぎりしました。

殿下の御車は、特に御徐行をなされて、沿道に居並ぶ私達に、親しく御會釋を賜ひつゝ、校門にお止り遊ばされました。妃殿下には御車より御降り遊ばされ、續いて御近侍もお降りになりました。門前にはお待ち申し上げてゐられた石濱校長はお近くに進まれました。宮内事務官、知事閣下も、お近く進まれました。

妃殿下には、遺族の前に間近くお立ちあそばされ、いともありがたいお言葉を賜りまして、遺族の人々は皆咫尺の間に、妃殿下の御尊容を拜することが出来ましたし、尙御皇室に於かせられては、我々臣民を御あはれみ遊ばされる御仁慈に只々感

激の涙にむせぶばかりでした。

一同恐懼感激してゐる中を、妃殿下には校長の御先導で、一旦講堂に設けられてある御休憩場に御進み遊ばされました。全校光榮に打ちふるひ、唯肅として聲一つなき中を、學校長は單獨拜謁を仰せつけられまして、謹しみて古高松國民學校の校狀につきまして、言上致されました。

やがて、妃殿下には講堂を御出ましになり、東廊下を北へと御進みになり、調理室へ向はされました。調理室には學校職員婦人會員等の手で、味噌汁は今しも沸き立つてゐます。

妃殿下には直に釜近くまで、お進みなされてよく御覽遊ばされ、校長から先づ御説明申し上げました。其の時いとも御熱心な御視察の御態度を拜することが出来ました。

それから食事をしてゐる初等科四年女子組の教室へ向はせられました。そして教壇にお立ち遊ばされまして「此の食物をありがたくいただきます。好き、きらひなくいただきます。よくかんでいただきます。」食前の作法を御覽下さいました。

殿下には、いとも御圓滿なる御徳をそゞがせ給ひました。それから教壇をお降りあそばされ、兒童の御辨當を一々御覽になられました。尊き御身ながらも、常に下々の事に意を用ひさせ給ふ御心のほどを、ありがたく拜察いたしました。次に教室を出られますと、廊下を東へお廻りなされ、教室内の兒童に目をおうつしなされながら有難き御言葉を賜はり、私達はたゞく頭がさがるばかりで御座居りました。

これから御晝食場であられる習禮室へ御成りあそばされました。殿下には特に私達が献立申上げたお汁、たゞ異つてゐるのは縣衛生課から送られた御水だけで、私達婦人會員や兒童と同じお汁を、御召しあがりになられまして、如何に私達の日常に御心をそゞがせ給ふことかを拜することを得ましたと共に、日尙淺い保健食の實施にとりまして何んと云ふ光榮で御座るませうか。

御食事後五分間御休憩、御送りの合圖で皆御道筋に居並んで、お歸りをお待ち申し上げて居ります。

妃殿下には、数々の有難いお言葉を賜りながら、特に遺族に親しく御挨拶をなされまして、御機嫌うるはしく、自動車に召させられ、十二時十五分次の上笠居村御視察にと向はさせられました。

妃殿下御歸りの後、校長先生から今日の光榮を、区内の人々にもお分け致したいとの御考へで、午後三時半まで 殿下の御休憩所や、御晝食場をお見せいたすことになりましたが、澤山の人々が来られました。妃殿下の御徳をしのび奉りました。此の光榮と感激を記念して、学校におきましては、米英撃滅學童貯金をいたすことになり、私達婦人會員は、妃殿下の有難い御心に對し奉り特に、遺族の慰問に一層の努力をはらふと同時に、自己の修養に心掛け、銃後婦人の務めを果さん事を固く誓ひました。尙運動場の堤防には婦人會員の手で、若き梅の木を植えることに致しました。

## ニ、香川郡上笠居村

### 高松宮妃殿下本村御成の際御高德の数々

大日本婦人會上笠居村支部

皇后陛下の御内旨に依り本月八日九日十日の三日に亘り本縣に御成り遊され、本縣管下の民情特に婦人の活動状況等を御視察被遊しましたが、如何なる光榮か當支部山邊班は直接其の御視察の榮に浴し、洵に忝けなく恐懼感激に堪へざる所で御座います。當日 殿下の御召自動車はあの高松よりの縣道を御通過、當支部鬼無部落にて御停車、直に御下車、當日は折悪しく雨天の爲、大變道も悪く、殊に數町の山坂道なるも、少しも御かもひの御様子もなく、金枝玉葉の御身を以て、いとも御健かに御元氣に満ち／＼たる御徒歩遊されましたる御事、これこそ私等會員に有難き御垂範の第一印象で御座いました。1、道々の出迎村民等に御慈愛こもれる御答禮、特に高齢者に對しては、「皆様方は何日迄も御健かにて御長命なさいませやう」との有難き御言葉を賜りました。

2、妃殿下には五分間にも渡り女牛耕者（山邊婦人會員杉村よしゑ外五名）御覽遊され、銃後婦人なればこそその御満悦なる御尊顔を拜せられました。

3、共同炊事場にては「打ち込み汁」の作り方を御覽遊され、「カロリー」は如何に等の御下問、容器類等につき御下問 又其所に設置してある醬油醸造所迄も御覽遊され、一々細密に渡りましての御視察であらせられました。

4、次に熊野神社境内に於ける御野立所前にて、村有志者並に遺家族、婦人會員幹部等が御出迎いたして居りました。一々有難き御答禮、特に遺族總代「八村彌平」に對し洵に有難き御言葉を賜はりまして、感涙にむせびました。

5、熊野神社へ御参拜、菊花薫る御野立所に御少憩

6、御歸途に及びまして、神社右脇に設置されたる季節保育所を御覽遊されまして、御にこやかなる御様子にて、如何にも御慈愛こもれる御言葉を残されました。

以上何れに致しましても、民情に通じたる御高德の数々の氣高さ、とても私如き拙き筆以て謹書奉るすべすらもなく、たゞ／＼恐懼感激に満ち、御高德の萬分の一にもと存じまして、直に支部會員一同團結のもとに、軍事援護事業に、健民運動に、食糧増産等に一層の強化を加へ、奮起邁進し必勝の信念を深くして、之に報いることを堅く誓ひました。特に山邊班に於きましては、荒地開墾をして記念増産地を作る計畫をして居ります。

## ホ、綾歌郡山内村

### 高松宮妃殿下の御高德を仰ぎ奉りて

大日本婦人會山内村支部長 岡内文枝

此の度 高松宮妃殿下には、皇后陛下の御内旨を奉ぜられ、銑後に戦ふ婦人の活動状況御視察のため、十一月八日より三日間に渡り、縣下十三ヶ所の市町村の戦力増強食料増産に挺身する銑後婦人の職場より職場へと御成り遊され、御熱心なる御視察御激勵を賜はりました。我が山内村も隣保事業御視察として、光榮ある村に選定せられ、十一月九日長くも 殿下の御車をお迎へ申し上げました。私も大日本婦人會山内村支部長として、御車近くお送迎申し上げる光榮を得ましたことは感激に堪へない所で御座います。

殿下には、沿道に増列して奉迎申し上げる遺族に、いち早くお目を留めさせられ、實にお優しく御叮嚀なる御言葉賜はり私共は良くぞ皇國の御民と生れしと感激に胸せまり、自然目頭のあつくなる思が致しました。隣保館にて御少憩の御後、乳幼児の保健状況を、又愛育園にて收容幼児の保育状況を詳細に御視察遊ばされました。殊に 殿下には村民の保健に、生活状況に、お心をそゝがせ給ひ、數々の御下問ありしやに承はりました。その御言葉に御態度に、いとも懇に渡らせ給ふことは只々恐懼感激の外ございません。沿道に増列の學校兒童、大日本婦人會員、或は村民に對して迄御機嫌麗はしく御會釋を賜はり、御車の去りし後も、只々御尊き氣高きお姿をお名残りおしく御見送り申し上げました。此の感激はあの御氣高き御容姿と共に私共は永久に忘れる事はございません。我が村支部にては、此の光榮を胸に刻み、御成記念事業として毎年十一月九日を、遺家族家庭への勤勞奉仕日と定め、又中堅男子の征てまし、後、増産に挺身する覺悟も堅く、婦人牛耕實施を奨勵致す事を申し合せ、共に一層感奮興起、各々職域において、奉公の誠を致し、御鴻恩の萬一にお應へ奉らん事を期する次第でございます。

### 香川縣立修練道場

榎井村修練道場へ 畏くも御成り遊ばされし、

高松宮妃殿下を奉迎申上げた時の感想と御模様を謹而左に記す。

今回圖らず 高松宮妃殿下に於かせられては 畏くも 皇后陛下の御内旨を受けさせられ、決戦下の民情を御視察遊ばさる

る御爲、當香川縣へも御成りになり、而して當村の修練道場へも、御立寄り遊ばさるゝ御事となりました。

御成りの日には、我が大日本婦人會當村支部の役員も御出迎へ申上ぐる事となり、一同此の上も無き光榮と深く感激致しました。私は此の尊き宮様を御出迎へ申上げるのに、少しでも不敬に渡つてはならぬと存じ前日先づ髪を洗ひ、身心を清めて、其の日を御待ち申上げました。

當日御出迎へ申上げる整列の順序は、修練道場門内向つて左側には、當道場長、當村長以下、村内の代表者、其の次に遺族の方々が並び、反對の側には村會議員、次に孝子、節婦として表彰せられた婦人、次に我が大日本婦人會の當村支部の役員が控へる事となりました。それに續いて、當道場の職員生徒が一齊に並びました。

一同は刻一刻と緊張の度を加へつゝ、御成り遊ばされる時を御待ち申上げて居りました。

兎角する間に、生憎の小雨が降出しましたが、一同は矢張り緊張を續けて居ります。どうか晴れて呉れ、ば好い、千載一遇の此の御成りの日だ、雨が降つてはならぬと御案じ申上げましたが、愈々御成りの迫る頃幸なる哉、次第々々に雨は歇んで参りました。恰も好い潔めの雨となりました。斯くする間に、御成り御成りと力強い小聲が、此處彼處で聞えて参りました。其の時突如として最敬禮の號令が發せられました。一同の緊張は其の極に達し、最敬禮を行ひました。續いて發せらるゝ、直れの號令に恐るゝ面を上げますれば、何たる恐れ多き事でありませう、私の前に御車は止まらせ給ふたので御座います。私は餘りの恐懼に思はずも再び最敬禮を行ひました。而して 妃殿下には御靜かに御車を出でさせられ、御玉歩を地上にうつさせ給ひました。

始めて近々と 妃殿下を拜し上げる私は、唯々勿體なさに戦いて居りました。我々が申上げるは恐多き事乍ら拜し上げる御顔の何たる御氣高さで御座いませう。御高德を備へさせられた、神々しい御美しさは、實に尊くて申上げ様も御座いませぬ。又御服裝の御地味なる紺紫は、又なく清淨なる御置はしさをたもたせ給ふて、一入尊く拜し上げました。斯様な尊き御身を以て遙々此の遠路迄御出まし遊ばされ、時局下の産業を御視察遊ばし、民草に御激勵を賜ふ事は誠に恐懼感激の外は御座いませ



ん。是を思へば賤しき私共は、如何なる苦痛に遭ふとも、飽くまで努力しよう、勝抜く爲には倒れる迄、働かねば成らぬ覚悟が更に強められました。妃殿下には、御下車遊ばすと直に遺族の前に御近づき遊ばされて、勿體なくも其の内の一未亡人に向かはせられ、實に尊き御言葉賜はりました。其の婦人は恐懼し、餘りの有難さに涙さへ浮かべて居りました。一同の遺族も共に感激致して居りました。御下間を終らせ給ふた妃殿下には、場長の御先導にて、道場の御待ち申上げてゐる生徒の前に御立ち遊ばされました。御立ち遊ばされる御臺の上には、清めの荒蕪が敷かれてありました。妃殿下には、此の臺の上に昇らせ給ふて、同生徒職員毎朝に行ふ拜禮の式を、御覽遊ばされました。此の式が終りますと、又場長の御先導にて御休息遊ばされ給ふとて、私共の前を又々御通り遊ばして貴賓室へ御入り遊ばされました。其の御道すがらにも絶えず、我々一同へ尊き御會釋を賜はりました。御休憩を終らせ給ふた。

妃殿下には、又々我等の前を御通り遊ばされて、同じく場長御先導のもとに、場内の状況を御視察遊ばされました。是を終らせ給ふた。妃殿下には、御待ち申上ぐる御車に召させられて、次の御豫定なる満濃池の御視察の爲、當道場の門を御出まし遊ばされました。誠に恐れ多き事で御座いますが、其の時もいと御懇なる御會釋を一同に賜ふたので御座います。一同は御名残惜しく御車の影を伏し拜みました。砂上に鳴る御車の音は次第に遠くへ消えました。其の後我々役員は、妃殿下の御高德に御應へ奉るべく、役員會を開きました。先づ今日迄の總べての事業は、今後一層強化する様申合せました。そして新しき事業としては、御成りの記念の貯蓄を勵行し、今一つは飛行機献納資金を募る運動を起し、毎月の奉公日を期して琴平驛頭に立ち、婦人會員が交代にて奉仕する事に致しました。幸に皆會員が熱心である事を喜んで居ります。尙又各自家々に於て工夫し無駄になつてゐる地所、或は觀賞用の木もあらば、抜きて決戦下に役立つ如き樹木を植へる事を申合せ、是をも御成り記念の一つと數へ度いと存じて居ります。

扱て恐多き 妃殿下を御迎へ申上げた光榮と感激を申上ぐるには、誠に拙き此の私の筆を恐縮致し乍ら筆を擱く事と致します。

### ト、仲多度郡琴平町

大日本婦人會琴平町支部長 琴 陵 文 子

皇后陛下の御内旨により、高松宮妃殿下には、本縣下の銃後婦人状況御視察のため、十一月八日本縣下に御成遊ばされ、全縣下にわたり、決戦下特に戦ふ女性の活動状況を親しく御視察遊ばされました。御來縣の第二日目の九日琴平町に御來着。御泊所なる虎屋旅館に御一泊遊ばされました。夜來の秋雨名残なく晴れわたりました翌十日午前八時四十分御出發、全山秋陽に紅葉映ゆる金刀比羅宮へ御參拜遊ばされました。數ならぬ私も、此の日扈從の光榮に浴しました事は、大日本婦人會琴平支部を代表いたしました次第で恐懼感激いたしました。

御參道筋に堵列御歡迎申上げました遺族に對しては、御やさしき御慰めの御言葉さへ給はりました。遺族一同はかたじけなさに涙さへうかべ、亦全會員へは御ねんごろなる御激勵の御言葉さへたまはりました。一同御奉公の誠を御ちかひ申上げました。ほどなく御本宮へ御安着、御本殿に御參入、御玉串御奉奠遊ばし、戦勝御祈願はもとよりやゝ久しく神前に御祈念遊ばしました事は、誠におそれ多きはみと拜し上げました。御歸途社務所へ御立寄、はるかに讃岐富士をのぞむ奥書院において御少憩の御後、寶物館學藝館にも御立寄りとも御熱心に御觀覽遊ばされました。

秋禽なきかはす神苑をおひろひにて御下山遊ばし、御豫定の御時間に、御機嫌うるはしく御出發遊ばされました。

此日此地へ成らせられました光榮を支部會員一同深く感激いたしました。戦局ますます苛烈なる此秋、會員各自婦徳の修養につとめ、銃後の陣をかたく守り、御奉公に努力邁進いたしたいと存じます。

チ、開墾鹽業株式會社丸龜出張所

昭和十八年十二月九日

丸龜市鹽屋新濱八〇三ノ二

開墾鹽業株式會社丸龜出張所

所長 橋 良 貫

畏くも 皇后陛下の御内意を奉ぜられ、高松宮妃殿下御來縣の際、御視察御繁忙なる御日程にも拘らせられず、十一月十日當所へ豪臨を辱ふ致しましたことは、誠に恐懼感激の至りであります。殿下には奉迎の遺族に對し、御叮嚀なる御會釋を賜ひ、且つ代表者に對して、御懇篤なる御言葉賜はり、何れも 皇恩の有難さに感泣致した次第であります。殿下には終始製鹽作業の御説明を御熱心に聽し召され、又塩田に働く勤勞者、特に女子勤勞者たちの作業を御満足の御模様にて、御覽遊ばされました事は、私等製塩事業に關係するもの總て光榮と存じ、従業員一同御聖恩の程を一層深く肝に銘じ、愈々献身奮闘以て鹽増産に邁進致す決意を固めたる次第であります。尙光榮を永久に記念致します爲、毎月同日を當所の記念日と定め、豪臨の感激を想起すると共に、一層職域御奉公に邁進致し度く、又此の期に於て、時局に副はしむ有効適切なる事業を起し、此の光榮を記念致したいと存じて居ります。

リ、三 豊 郡 仁 尾 町

高松宮妃殿下を迎へ奉りて

大日本婦人會仁尾町支部長

鹽 田 靜 枝

降り續いてゐた雨もからりと晴れ、七寶山の緑も一きは鮮かに、紺青の燈籠には千代八千代と祝ふ鶴島龜島も舞ひ上りたる風情ありて、瑞氣天地に満ち／＼てゐます。

私共婦人會幹部の者も奉迎に列し、今か今かと御待ち申上げました。

定刻十三時三十五分、御召自動車は、靜々と御到着、殿下には御來縣第三日の御繁忙な御日程にも拘らず、些かの御疲れもあらせられぬ御尊容に接し、只々恐懼の至りに堪へません。

直に奉迎の遺族に對し、御鄭重なる御會釋を賜ひ、

「お國の爲とは申すものゝ大切な御方を失ひ、皆さんの御心十分御察し致します。」

「力を落さぬやう、英靈の精神を生かして行くやうに……………」

と親しく慈愛溢るゝ御言葉を賜ひて懐はせらるゝ、居列ぶ者始め遺族は何れも皇恩の有難さに感泣いたしました。

特に私は御隨行の光榮に浴しました。

御休息の御暇もあらせられず、細羊の飼育御視察いとも興深く御覽あらせられ、

「あれは可愛い子羊ですね。」

と仰せられました。御慈愛の程畏き極みであります。

續いて羊毛加工室に御成り、原毛、洗毛、梳毛、繰糸、撚糸、染色、製經、機織等綿密なる御視察を賜ひました。

「この染料は何を使つてゐますか。」

「石鹼は手に入りますか。」

等生徒にまでの御下問、洵に恐懼の至りでした。

やがて實習田に御成り、女生徒の勇ましき諸掘實習を御巡視、ころげ出る諸を興深く御覽遊ばされ、數々の御下問あらせられたる由に承つてゐます。

思ふに金枝玉葉の御身を以て、決戦下に於ける私共の活動状況、特に生産増産に挺身する婦人の活動及びその施設を御視察  
あらせられたのであります。

本町女子青年學校生徒は申すまでもありませんが、私共婦人の光榮之れに過ぐるものはありません。  
只此の上は私共銃後の婦人と致しましては、此の有難き思召を永久に奉戴し、齊しく各自の職域に赤誠を捧げて奉公の誠を  
盡し、銃後の使命達成に努力を致す覚悟でございます。聖戦已に二周年を迎へました今日、更に一層の意を強うする次第で  
あります。

又、三 豊 郡 観 音 寺 町

### 高松宮妃殿下奉迎の感想

大日本婦人會觀音寺町支部長 浮 田 サ ダ

畏くも 高松宮妃殿下には 皇后陛下の御内旨を奉ぜられ、去る十一月八日、秋色深き讃岐路に、八十萬縣民の決戦下に於  
ける活動状況、殊に銃後婦人の生産増強協力につき御視察あらせられました事は、縣民一同の感激新なる所でございます。  
其の御日程の第三日即ち十日には、午後一時十八分我が觀音寺町に御巡視あらせられ、琴彈公園内浴日館に御休憩遊ばされ  
ましたが、支部長として御側近く献茶の光榮に浴し、氣高き御容姿を目のあたり拜し、誠に恐懼感激の極みでございます。  
曩に明治三十三年 小松宮彰仁親王殿下臺臨の際にも、當浴日館に奉仕の光榮にあづかり、また此度の榮譽を擔ひまして、  
只々家門の譽と先祖の御蔭と、感涙に咽んで居るのでございます。  
畏れ多くも 妃殿下には、奉迎の御道筋に御召自働車を徐行せしめられ、奉迎の會員始め女學生の列に迄、絶えず御慈しみ

深き御會釋を賜はり、濱邊に奉迎の遺族に對しましては、恐れ多くも御ひろいにて御近つきになり、「子女を立派に教育して  
英靈の志に添はしめよ。」との有難くも慰め勵まし給ふ御言葉の優に御やさしき貴さや、又半数以上婦人もまぢる地曳網の力  
強き活動振に御満悦の御模様で、漁業組合の幹部を御側近く御召になり、「戦時下資材不足の折柄 何かと苦勞であらう。」と  
御憐みの御言葉があり、尙町長に「石油の配給はどうであるか。」「網や漁具の配給はどうか。」「魚の販路はどうか。」「等専  
門家も及ばぬ様な行届いた御下問あらせられ、尙「職域に奉公せよ。」と御激勵遊ばさるゝ等、御心の有難さ勿體なさに恐懼  
感激致しますと共に、誠に此の強い感激より我等婦人の底力も沸き出づるを覺えました。

昨秋、大日本婦人會は御内旨を奉戴し、今秋また有難き御激勵の御言葉を賜はり、尙具さに状況御視察あらせ給へる御心を  
つら／＼拜察致します時、時局下婦人の責務の一層重く、更に大なる事を痛感致すのでございます。此の感激を胸にしめ、  
當支部二千五百名の會員と共に、一意婦人報國の使命達成に勵み、米英の我が軍門に降る迄は、銃後の職域も家庭も、これ戦  
場の心構にて戦ひ抜いて、御心の萬分の一にも報ひ奉らんと決意を固めた次第でございます。之れを記念に適當な記念行  
事を計畫致したいと考へて居ります。猶觀音寺漁業組合並に伊吹漁業組合の婦人部に於ては、此感激を永久に記念する爲、十  
一月より宮様御來町記念國民貯金を申合せ、勵行致して居るのであります。私は之を廣く本町全般にも擴めて参りたいと考  
へて居る次第でございます。

又、三 豊 郡 豊 濱 町

### 高松宮妃殿下を迎へ奉りて

大日本婦人會豊濱支部長 加 藤 ト モ 謹 記

畏くも 皇后陛下の御内旨により、

高松宮妃殿下には、香川縣西端の僻地豊濱町の正織興業株式會社豊濱工場へ御成り遊ばさるゝとの御事承はりまして、工場関係者はもとより全町民は、御成日を有難さと喜びとで、謹みて御待ち申上げておりました。愈々十一月十日光榮の朝は輝やかしく明けて、日章旗は秋空高く翻り、今日のみ日を全町を擧げて壽ぎました。戦死者遺族、町代表、婦人會代表等は清掃された豊濱工場玄關前の定められた場所について、謹みて奉迎いたしました。御車の御道順を刻々と知らせられる度毎に、思はず身の引きしまるを感じました。十五時三十分、御車は玄關前に靜かに着御遊ばされ、秋の光を浴びさせられて立たせ給ふ。殿下の御容姿、御清楚御端麗にわたらせられ、神々しい御氣高さを拜し奉りて、只々難有「みたまわれ生けるしあり天地の榮ゆる御代にあへらく思へば」の感激に打たれました。

殿下には御歩を遺家族の前に御運ばさせ給ひて、難有き御慰問の御言葉の數々を賜はり、遺家族は勿論のこと、参列者一同は恐懼感激いたしました。

殿下には貴賓室に成らせられて御少憩の後、工場内に御進み遊ばされ、騒々しい織布部、ミシン部、薬品の臭氣高い染色部等工場内の隅々までくまなく御視察遊ばされ、姫井社長の言上をいとも御熱心に御聞し召されました。織布部では織布の縦糸の數まで御下問を賜はりと拜しましては、殿下の重要産業に御意をそゝがせ給ふ御造詣の御深きに、心打られました。尙女工員の食生活まで御下問遊ばされ給ふたと拜しましては、産業人にたれさせ給ふ御慈愛の深きに只々難有く感じました。

殿下には些の御疲れの御様子もあらせられず、御機嫌いとも御麗しく、十六時〇五分愛媛縣へ御立ち遊ばされました。

殿下の今度の御成りにより、私等は身にあまる光榮と、幾多の貴き御教訓を賜はりました。私等は層一層戦時生活の徹底をばかり、大東亞戦争完遂に、凡てを捧げ盡して、皇恩の萬分の一にも報い奉らなければならぬと固く誓ひました。

### 八、高松宮妃殿下御視察記念事業

大日本婦人會香川縣支部

高松宮妃殿下には、畏き邊りの御内旨を奉じさせられ、昭和十八年十一月八日より同十日まで三日間に亘り、決戦體制下における本縣銃後婦人の活動状況を縣内各方面に亘り親しく御視察を賜はり、恐懼感激に堪へざる次第に御座候。

御視察を賜はりたる本縣民は固より、本會員一同の感激極めて大なるもの有之、誓つて此の有難き思召を奉體し、愈々粉骨碎身の誠を效す覺悟に御座候。

本縣支部關係の御視察地並本縣支部計畫實施事項は別紙の通りに御座候。

#### 別紙内容

- 一、大日本婦人會香川縣支部計畫實施事項
- 二、香川縣に於て企畫せられたるも本縣支部にも關係ある事項
  - (1) 香川郡上笠居村
  - (2) 綾歌郡山内村

以上

#### (一) 大日本婦人會香川縣支部計畫實施事項

高松宮妃殿下御成記念事業として左の事業を行ふ。

記

高松宮妃殿下御成記念日献金

- (1) 使途

陸海軍飛行機献納をなし、將來軍人遺兒育英資金に充てんとす。

(2) 方法

十六萬會員一日一錢献金とし、昭和十八年十一月八日の殿下御成記念日を起點とし、第一回を本年十二月八日集金し、高松百十四銀行に『御成記念日献金』なる特別口座を設け、以後毎月八日を期し集金し、其の月の十五日迄に拂込を了するものとす。

此の金額一ヶ年豫想約五拾萬圓なり。

(二) 香川縣に於て企畫せられたるも本縣支部にも關係ある事項

(一) 香川郡上笠居村

高松宮妃殿下の御成により、大東亞戰爭完遂に挺身せんとする村民の感激新なるものあり、益々戦力増強に對する決意を堅くせり。

其の表はれとして、

(1) 村當局は左記記念事業を行ふ豫定なり。

(イ) 婦人講座の開設により決戦生活の強化を計らんとす。

(ロ) 家産増殖を目標とする長期貯蓄を實行せんとす。

(ハ) 健民運動の強化。

(ニ) 食糧増産の完遂。

(二) 軍人遺家族の感激

妃殿下より賜はりたる御言葉に恐縮し、遺家族なればこそ有難き御言葉を賜はつたのだ、國に殉じたる親子兄弟も以て瞑すべしと參會者一同と共に戦死者の追悼を行ひ、靈前に報告すると共に御言葉を印刷し、遺家族全部に頒布し、益々職域

奉公の誠を致さんことを誓へり。

(三) 御視察地山邊一部落民の感激

部落民の感激は一層大なるものあり、一致團結増産に邁進せんとする決意となり、本年の共同作業は殊に成績良く、同時に村の記念事業に全面的協力する外、目下記念造林の計畫中なり。

(三) 綾歌郡山内村

(一) 隣保事業協會

(1) 幼兒の午睡室を建設し、満一歳以上の幼兒の託兒設備を整理して、乳幼者の保育事業の擴充を圖るべく目下計畫中なり。

(2) 現在本村は無醫村に付、醫師を聘置し、村民の保健と乳幼兒の健康増進を圖らんとす。

(3) 記念館を建設し、老人に對し藥湯を設備すると共に、村出身者にして他郷にある者(例滿洲開拓民等)の歸省の際の無料宿舎に充てんとす。

以上

502  
7

昭和二十年三月廿日印刷  
昭和二十年三月五日發行

(非賣品)

編輯兼發行人 大日本婦人會香川縣支部

香川縣高松市內町九十七番地(日本徴兵館三階)

印刷人(香川) 香 西 榮 太 郎

香川縣高松市西通町五十三番地

印刷所 株式會社高松製版印刷所

香川縣高松市西通町五十三番地

發行所 大日本婦人會香川縣支部

(認承縣川香)

終

